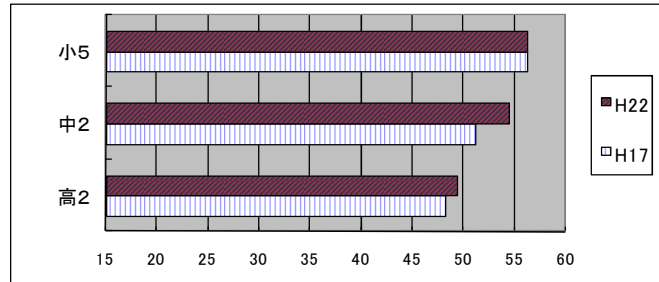


分析(1) 平均の比較

栃木の子どもの規範意識 (H17年度調査とH22年度調査結果、15項目合計(15~60)の比較)

15項目全体

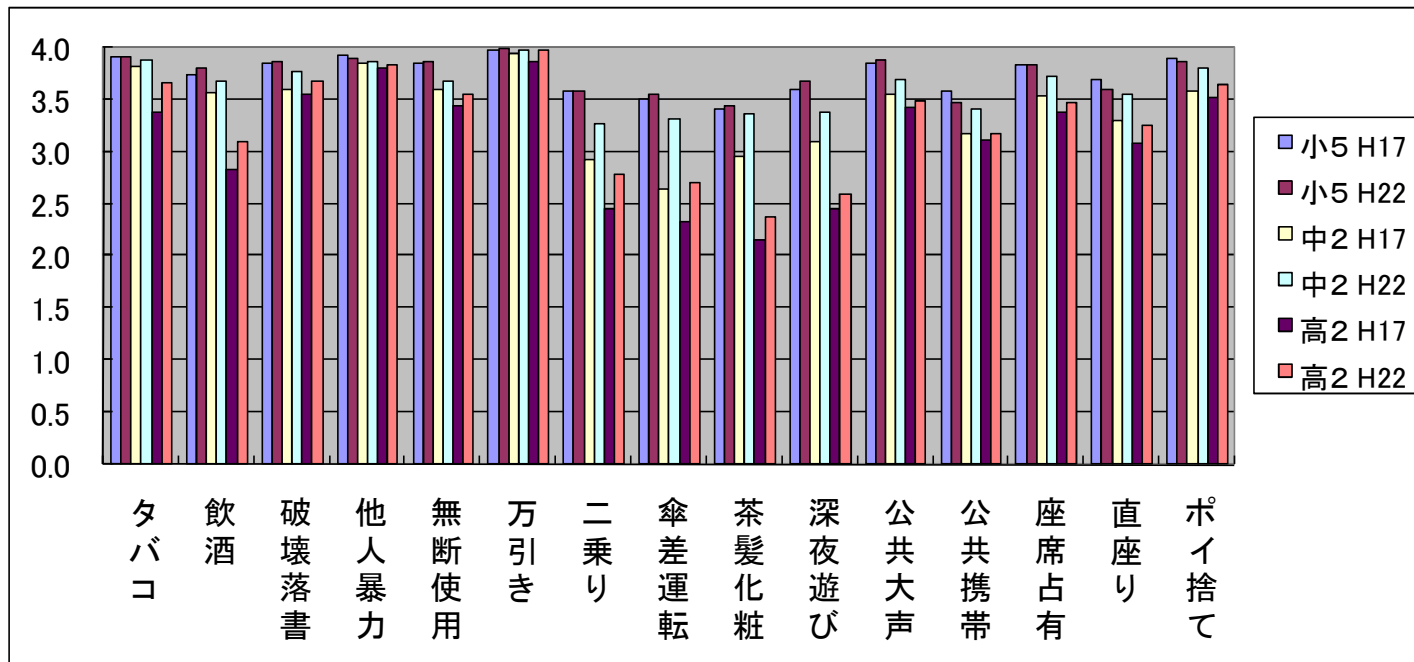
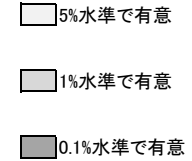


	H17	H22	差	有意性
高2	48.24	49.30	1.07	5%水準で有意に向上
中2	51.14	54.41	3.27	0.1%水準で有意に向上
小5	56.23	56.23	0.01	有意なし
合計	155.60	159.95	4.34	
標準差	3.46	3.55	0.10	

項目ごと

栃木の子どもの規範意識 (項目別:H17年度調査とH22年度調査結果の比較)

	ポイ捨て	直座り	座席占有	公共携帯	公共大声	深夜遊び	茶髪化粧	傘差運転	二乗り	万引き	無断使用	他人暴力	破壊落書	飲酒	タバコ	合計	平均
H17小5	3.89	3.69	3.83	3.59	3.85	3.60	3.41	3.51	3.59	3.97	3.85	3.93	3.86	3.74	3.91	56.23	3.75
H22小5	3.86	3.59	3.84	3.48	3.87	3.67	3.44	3.55	3.59	3.99	3.86	3.90	3.87	3.81	3.91	56.23	3.75
差	-0.03	-0.10	0.01	-0.11	0.02	0.07	0.03	0.04	0.00	0.02	0.01	-0.03	0.01	0.07	0.00	0.01	0.00
H17中2	3.58	3.31	3.54	3.18	3.55	3.10	2.96	2.65	2.92	3.94	3.60	3.84	3.60	3.56	3.82	51.14	3.41
H22中2	3.80	3.55	3.72	3.40	3.70	3.38	3.37	3.32	3.26	3.98	3.68	3.87	3.78	3.68	3.88	54.36	3.62
差	0.22	0.25	0.18	0.22	0.15	0.28	0.40	0.67	0.34	0.04	0.08	0.02	0.18	0.12	0.06	3.22	0.21
H17高2	3.52	3.09	3.39	3.11	3.42	2.45	2.16	2.33	2.46	3.87	3.44	3.80	3.55	2.84	3.38	46.79	3.12
H22高2	3.65	3.25	3.47	3.18	3.48	2.60	2.38	2.70	2.79	3.98	3.56	3.83	3.67	3.09	3.66	49.30	3.29
差	0.14	0.16	0.08	0.07	0.06	0.15	0.22	0.37	0.33	0.10	0.12	0.03	0.12	0.26	0.29	2.51	0.17

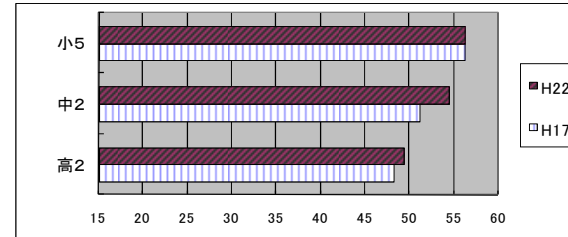


分析(1) t検定

表 規範意識(自分)のH17とH22の比較(t検定の結果)

	H17	H22	
高2	48.23711	49.30311	(5%水準で有意)
中2	51.14164	54.40885	(0.1%水準で有意)
小5	56.22616	56.23398	(有意なし)

H17年度調査とH22年度調査結果、15項目合計(15~60)の比較



t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

小5		
	変数 1	変数 2
平均	56.22616	56.23398
分散	30.558	24.95627
観測数	367	359
プールされた分散	27.78809	
仮説平均との差	0	
自由度	724	
t	-0.02	
P(T<=t) 片側	0.492025	
t 境界値 片側	1.646961	
P(T<=t) 両側	0.984051	
t 境界値 両側	1.963246	

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

中2		
	変数 1	変数 2
平均	51.14164	54.4089
分散	43.38329	36.4721
観測数	353	384
プールされた分散	39.78194	
仮説平均との差	0	
自由度	735	
t	-7.02511	
P(T<=t) 片側	0.00000	
t 境界値 片側	1.646929	
P(T<=t) 両側	0.00000	
t 境界値 両側	1.963197	

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

高2		
	変数 1	変数 2
平均	48.23711	49.3031
分散	60.64131	43.5261
観測数	388	386
プールされた分散	52.10586	
仮説平均との差	0	
自由度	772	
t	-2.05424	
P(T<=t) 片側	0.020144	
t 境界値 片側	1.64683	
P(T<=t) 両側	0.040289	
t 境界値 両側	1.963042	

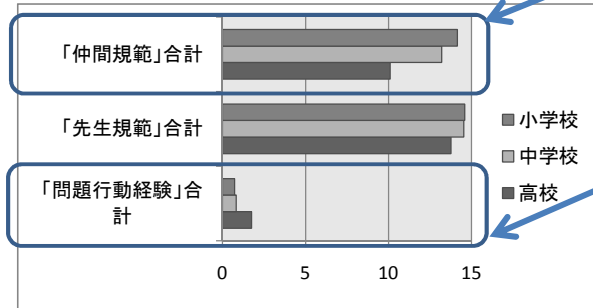
タバコ	n.s	
飲酒	n.s	
破壊落書	n.s	
他人暴力	n.s	
無断使用	n.s	
万引き	n.s	
二乗り	n.s	
傘差運転	n.s	
茶髪化粧	n.s	
深夜遊び	n.s	
公共大声	n.s	
公共携帯	5	%水準で有意に下がった
座席占有	n.s	
直座り	n.s	
ポイ捨て	n.s	

タバコ	5	%水準で有意に向上
飲酒	n.s	
破壊落書	0.1	%水準で有意に向上
他人暴力	n.s	
無断使用	5	%水準で有意に向上
万引き	5	%水準で有意に向上
二乗り	0.1	%水準で有意に向上
傘差運転	0.1	%水準で有意に向上
茶髪化粧	0.1	%水準で有意に向上
深夜遊び	0.1	%水準で有意に向上
公共大声	0.1	%水準で有意に向上
公共携帯	0.1	%水準で有意に向上
座席占有	0.1	%水準で有意に向上
直座り	0.1	%水準で有意に向上
ポイ捨て	0.1	%水準で有意に向上

タバコ	0.1	%水準で有意に向上
飲酒	0.1	%水準で有意に向上
破壊落書	1	%水準で有意に向上
他人暴力	n.s	
無断使用	1	%水準で有意に向上
万引き	0.1	%水準で有意に向上
二乗り	0.1	%水準で有意に向上
傘差運転	0.1	%水準で有意に向上
茶髪化粧	1	%水準で有意に向上
深夜遊び	5	%水準で有意に向上
公共大声	n.s	
公共携帯	n.s	
座席占有	n.s	
直座り	5	%水準で有意に向上
ポイ捨て	1	%水準で有意に向上

分析(2) 相関分析

栃木の子どもの規範意識の現状



分析に利用する規範意識の本体

栃木の子どもの規範意識の現状

	小学校	中学校	高校
「問題行動経験」合計	0.73	0.83	1.75
「先生規範」合計	14.58	14.53	13.77
「仲間規範」合計	14.14	13.20	10.10

問題行動経験は、学校種が上がるほど増える

各尺度合計値の記述統計量

学校種		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
小学校	仲間規範合計	1084	0	15	14.14	1.711
	先生規範合計	1080	3	15	14.58	1.141
	問題行動合計	1081	15	25	15.73	1.166
	自分規範合計	1078	28	60	56.58	4.361
	いじめ容認合計	1043	18	76	37.12	10.058
	いじめ加担合計	1076	10	20	11.55	1.937
	有効なケースの数 (リストごと)	1010				
中学校	仲間規範合計	1125	0	15	13.20	2.632
	先生規範合計	1125	0	15	14.53	1.427
	問題行動合計	1124	15	27	15.83	1.445
	自分規範合計	1117	15	60	54.65	5.809
	いじめ容認合計	1106	19	79	42.51	10.931
	いじめ加担合計	1123	10	20	12.17	2.133
	有効なケースの数 (リストごと)	1073				
高校	仲間規範合計	1151	0	15	10.10	3.242
	先生規範合計	1144	0	15	13.77	2.283
	問題行動合計	1146	15	30	16.75	2.361
	自分規範合計	1148	15	60	49.76	7.045
	いじめ容認合計	1145	25	82	49.94	9.486
	いじめ加担合計	1155	10	20	12.43	2.175
	有効なケースの数 (リストごと)	1100				

2つの規範意識と問題行動経験との相関係数

学校種			仲間規範 合計	先生規範 合計	問題行動 合計
小学校	「仲間規範」 合計	Pearson の相関係数	1	.358	-.369
		有意確率 (両側)		.000	.000
		N	1084	1077	1078
	「先生規範」 合計	Pearson の相関係数	.358	1	-.369
		有意確率 (両側)	.000		.000
		N	1077	1080	1074
「問題行動経 験」合計	Pearson の相関係数	-.369	-.369	1	
	有意確率 (両側)	.000	.000		
	N	1078	1074	1081	
中学校	「仲間規範」 合計	Pearson の相関係数	1	.430	-.406
		有意確率 (両側)		.000	.000
		N	1125	1120	1119
	「先生規範」 合計	Pearson の相関係数	.430	1	-.271
		有意確率 (両側)	.000		.000
		N	1120	1125	1119
「問題行動経 験」合計	Pearson の相関係数	-.406	-.271	1	
	有意確率 (両側)	.000	.000		
	N	1119	1119	1124	
高校	「仲間規範」 合計	Pearson の相関係数	1	.351	-.387
		有意確率 (両側)		.000	.000
		N	1151	1137	1138
	「先生規範」 合計	Pearson の相関係数	.351	1	-.289
		有意確率 (両側)	.000		.000
		N	1137	1144	1132
「問題行動経 験」合計	Pearson の相関係数	-.387	-.289	1	
	有意確率 (両側)	.000	.000		
	N	1138	1132	1146	

分析(3) 階層的重回帰分析

規範意識が「問題行動経験」に与える影響の違い（発達の段階別：階層的重回帰分析の結果）

従属変数： 問題行動経験(合)	小学校		中学校		高校	
	標準化係数 (ベータ)	有意確率 (P値)	標準化係数 (ベータ)	有意確率 (P値)	標準化係数 (ベータ)	有意確率 (P値)
独立変数 規範意識(仲間)	-0.186	0.000	-0.310	0.000	-0.301	0.000
独立変数 規範意識(先生)	-0.183	0.000	-0.093	0.019	-0.192	0.000
独立変数 規範意識(仲間) ×規範意識(先)	0.071	0.029	0.005	0.889	-0.023	0.491
独立変数 社会的望ましさの合計	-0.314	0.000	-0.214	0.000	-0.113	0.000
調整済み R ² 乗	0.267		0.216		0.192	

左の表は、下記の表中の黄色に塗った数値を集めてまとめたもの。
標準化係数は、影響の大きさ(大きいほど関係がある)
有意確率は、独立変数と従属変数の関係がない確率(小さいほど偶然ではないことになる=5%未満の場合『有意』つまり有意な関係がある)

P<0.05 より交互作用 → 下位検定の実施 この比較結果より、結論②を考察した。

小学生の詳細データ

モデル	R	R ² 乗	調整済み R ² 乗	推定値の標準 誤差	変化の統計量				
					R ² 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
1	.394	.155	.155	1.054	.155	193.682	1	1053	.000
2	.517	.267	.265	.983	.112	79.927	2	1051	.000
3	.520	.270	.267	.981	.003	4.799	1	1050	.029

モデル	標準化されていない係数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差				許容度	VIF
	1 (定数)	18.677	.216		86.624	.000	
社会的望ましさの合計	-.225	.016	-.394	-13.917	.000	1.000	1.000
2 (定数)	18.028	.208		86.515	.000		
社会的望ましさの合計	-.176	.016	-.307	-11.202	.000	.928	1.077
仲間修正小学生	-.137	.020	-.202	-6.988	.000	.837	1.195
先生修正小学生	-.227	.029	-.218	-7.710	.000	.872	1.147
3 (定数)	18.068	.209		86.529	.000		
社会的望ましさの合計	-.179	.016	-.314	-11.398	.000	.916	1.091
仲間修正小学生	-.126	.020	-.186	-6.282	.000	.790	1.266
先生修正小学生	-.190	.034	-.183	-5.633	.000	.659	1.518
仲間修正 × 先生修正小学生	.016	.008	.071	2.191	.029	.654	1.530

中学生のデータ

モデル	R	R ² 乗	調整済み R ² 乗	推定値の標準 誤差	変化の統計量				
					R ² 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
1	.309	.095	.095	1.379	.095	116.393	1	1104	.000
2	.468	.219	.217	1.282	.123	87.046	2	1102	.000
3	.468	.219	.216	1.283	.000	.019	1	1101	.889

モデル	標準化されていない係数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差				許容度	VIF
	1 (定数)	18.632	.263		70.969	.000	
社会的望ましさの合計	-.224	.021	-.309	-10.789	.000	1.000	1.000
2 (定数)	17.771	.253		70.274	.000		
社会的望ましさの合計	-.155	.020	-.214	-7.743	.000	.931	1.074
仲間修正中学生	-.171	.017	-.311	-10.249	.000	.769	1.300
先生修正中学生	-.099	.030	-.097	-3.268	.001	.808	1.238
3 (定数)	17.772	.253		70.231	.000		
社会的望ましさの合計	-.155	.020	-.214	-7.731	.000	.926	1.079
仲間修正中学生	-.171	.017	-.310	-10.043	.000	.743	1.345
先生修正中学生	-.095	.041	-.093	-2.342	.019	.449	2.229
仲間修正 × 先生修正中学生	.001	.008	.005	.139	.889	.455	2.199

高校生のデータ

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				有意確率 F 変化量
					R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	
1	.205	.042	.041	2.300	.042	49.046	1	1116	.000
2	.441	.194	.192	2.111	.152	105.142	2	1114	.000
3	.441	.195	.192	2.111	.000	.475	1	1113	.491

係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
1 (定数)	19.735	.435		45.408	.000		
社会的望ましさの合計	-.252	.036	-.205	-7.003	.000	1.000	1.000
2 (定数)	18.395	.411		44.758	.000		
社会的望ましさの合計	-.141	.034	-.114	-4.128	.000	.942	1.062
仲間修正高校生	-.218	.021	-.302	-10.278	.000	.835	1.197
先生修正高校生	-.181	.029	-.177	-6.170	.000	.877	1.140
3 (定数)	18.389	.411		44.725	.000		
社会的望ましさの合計	-.139	.034	-.113	-4.073	.000	.938	1.066
仲間修正高校生	-.217	.021	-.301	-10.188	.000	.830	1.205
先生修正高校生	-.196	.036	-.192	-5.392	.000	.573	1.745
仲間 x 先生高校生	-.005	.007	-.023	-.689	.491	.640	1.561

表8 発達による「問題行動経験」への影響の違い (詳細)

モデル	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	調整済み R2 乗	
小学校	仲間修正小学生	-.186	-6.282	.000	.267
	先生修正小学生	-.183	-5.633	.000	
	社会的望ましさの合計	-.314	-11.398	.000	
	仲間修正x先生修正小学生	.071	2.191	.029	
中学校	仲間修正中学生	-.310	-10.043	.000	.216
	先生修正中学生	-.093	-2.342	.019	
	社会的望ましさの合計	-.214	-7.731	.000	
	仲間修正x先生修正中学生	.005	.139	.889	
高校	仲間修正高校生	-.301	-10.188	.000	.192
	先生修正高校生	-.192	-5.392	.000	
	社会的望ましさの合計	-.113	-4.073	.000	
	仲間 x 先生高校生	-.023	-.689	.491	

表9 規範意識の高群と低群による交互作用 (下位検定 小学校)

小学生 モデル	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	調整済み R2 乗		
①	a 仲間規範 合計-平均	-.159	-4.545	.000	.267	
	b 先生規範 高群	-.183	-5.633	.000		
	a x b	.085	2.191	.029		
	社会的望ましさの合計	-.314	-11.398	.000		
	a 仲間規範 合計-平均	-.214	-7.291	.000		
	c 先生規範 低群	-.183	-5.633	.000		
②	a x c	.067	2.191	.029	.267	
	社会的望ましさの合計	-.314	-11.398	.000		
	従属変数：問題行動経験					
	d 先生規範 合計-平均	-.156	-3.893	.000		
	e 仲間規範 高群	-.186	-6.282	.000		
	d x e	.089	2.191	.029		
③	社会的望ましさの合計	-.314	-11.398	.000	.267	
	d 先生規範 合計-平均	-.268	-6.588	.000		
	f 仲間規範 低群	-.203	-7.020	.000		
	d x f	-.067	-1.697	.090		
	社会的望ましさの合計	-.303	-11.023	.000		
	従属変数：問題行動経験					

分析(3) 下位検定 階層的重回帰分析 単純傾斜の検定

① 先生規範の高群 小学生

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
					R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
3	.520	.270	.267	.981	.003	4.799	1	1050	.029

係数a

モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
3	(定数)	17.851	.217		82.446	.000		
	社会的望ましさの合計	-.179	.016	-.314	-11.398	.000	.916	1.091
	仲間規範	-.108	.024	-.159	-4.545	.000	.571	1.752
	先生規範above	-.190	.034	-.183	-5.633	.000	.659	1.518
	仲間規範 × 先生規範above	.016	.008	.085	2.191	.029	.456	2.191

従属変数：問題行動経験

※1

① 先生規範の低群 小学生

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
					R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
3	.520	.270	.267	.981	.003	4.799	1	1050	.029

係数a

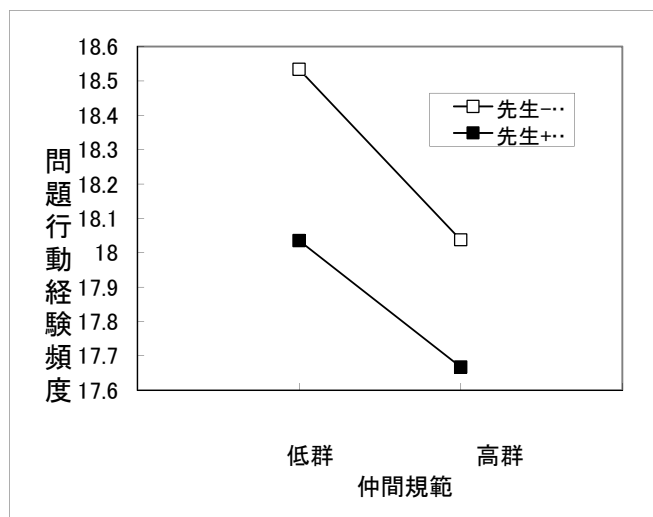
モデル		標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
3	(定数)	18.286	.208		87.872	.000		
	社会的望ましさの合計	-.179	.016	-.314	-11.398	.000	.916	1.091
	仲間規範	-.145	.020	-.214	-7.291	.000	.806	1.240
	先生規範below	-.190	.034	-.183	-5.633	.000	.659	1.518
	仲間規範 × 先生規範below	.016	.008	.067	2.191	.029	.753	1.329

従属変数：問題行動経験

※2

考察
 ※1と※2の標準化係数(ベータ)を比較すると、※2の値の方が大きくなっている。このことから、先生規範の高群も低群も、仲間規範が問題行動経験を有意に抑制しているが、先生規範の低群で、仲間規範がやや大きく問題行動経験を抑制している。

問題行動経験に対する先生規範と仲間規範の交互作用 (単純傾斜の検定)



② 仲間規範の高群 小学生

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
					R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
3	.520	.270	.267	.981	.003	4.799	1	1050	.029

係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ				許容度	VIF
3	(定数)	17.852	.219		81.456	.000		
	社会的望ましさの合計	-.179	.016	-.314	-11.398	.000	.916	1.091
	仲間規範above	-.126	.020	-.186	-6.282	.000	.790	1.266
	先生規範	-.162	.042	-.156	-3.893	.000	.433	2.308
	仲間規範above x 先生規範	.016	.008	.089	2.191	.029	.419	2.389

従属変数：問題行動経験

※3

考察
 ※3と※4の標準化係数(ベータ)を比較すると、※4の値の方が大きくなっている。このことから、仲間規範の高群も低群も、先生規範が有意に問題行動経験を抑制しているが、仲間規範の低群で、先生規範がより大きく問題行動経験を抑制している。

② 仲間規範の低群 小学生

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
					R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
3	.519	.269	.266	.982	.002	2.881	1	1050	.090

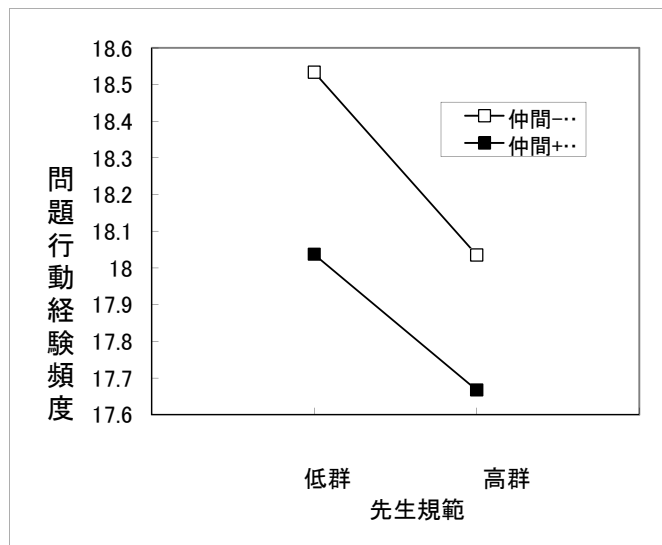
係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数		t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ				許容度	VIF
3	(定数)	18.252	.204		89.538	.000		
	社会的望ましさの合計	-.173	.016	-.303	-11.023	.000	.922	1.085
	仲間規範below	-.137	.020	-.203	-7.020	.000	.837	1.195
	先生規範	-.279	.042	-.268	-6.588	.000	.422	2.370
	仲間規範below x 先生規範	-.014	.009	-.067	-1.697	.090	.452	2.211

従属変数：問題行動経験

※4

問題行動経験に対する先生規範と仲間規範の交互作用 (単純傾斜の検定)



分析(4) 分類

小学生 4タイプ

各クラスターのケース数(人)

クラスター	1	805	A まじめ
	2	151	C 同調
	3	70	B 観衆
	4	52	D 不良
有効		1078	
欠損値		9	

中学生 4タイプ

各クラスターのケース数(人)

クラスター	1	725	A まじめ
	2	96	C 同調
	3	180	B 観衆
	4	118	D 不良
有効		1119	
欠損値		11	

高校生 4タイプ

各クラスターのケース数(人)

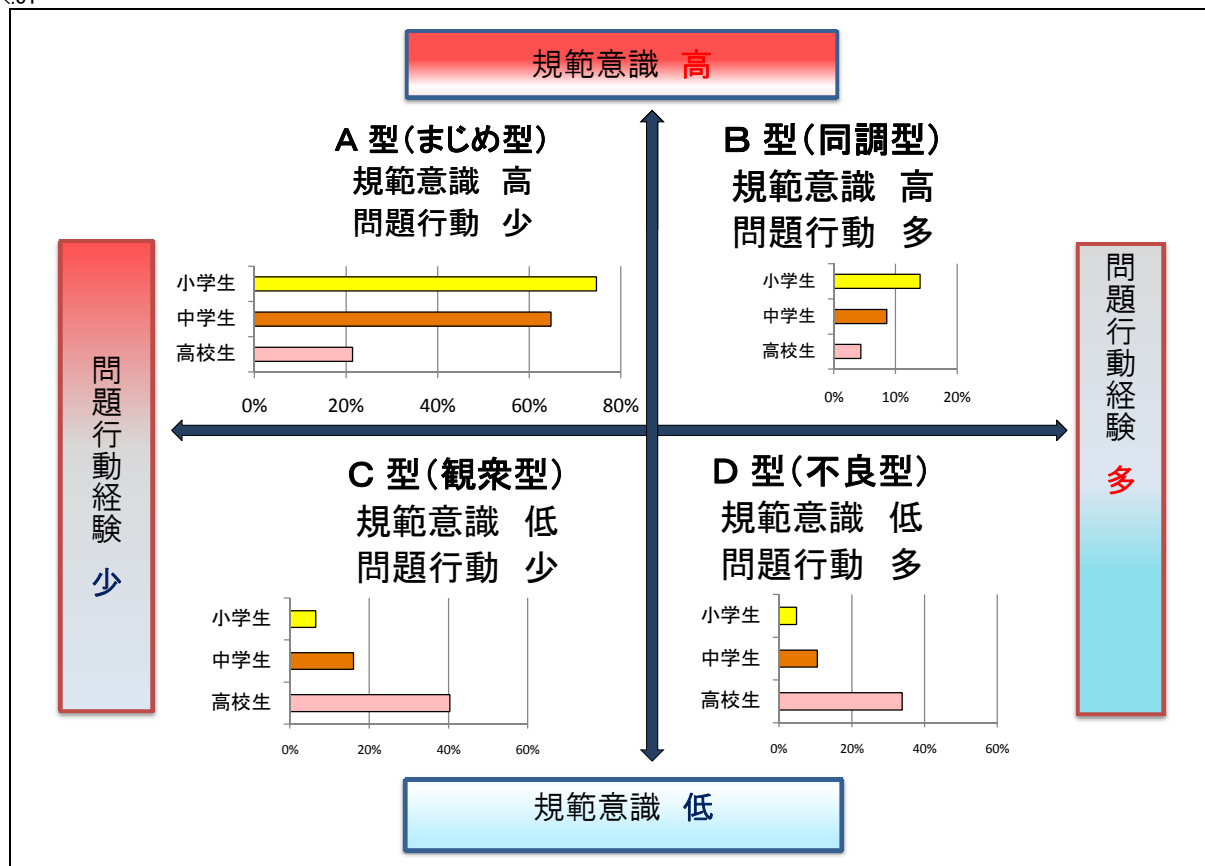
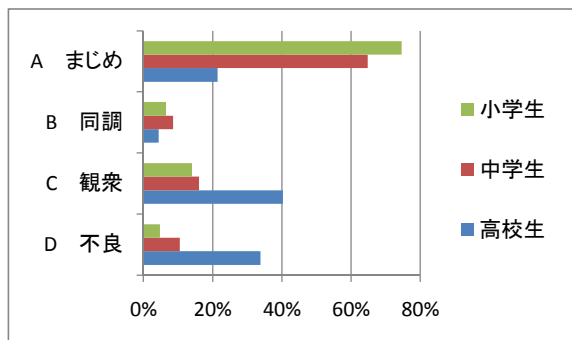
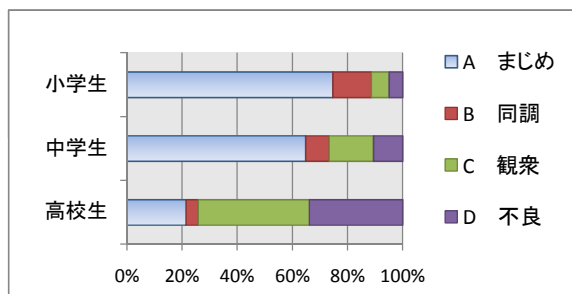
クラスター	1	244	A まじめ
	2	50	C 同調
	3	459	B 観衆
	4	385	D 不良
有効		1138	
欠損値		21	

栃木の子どもの4分類の現状(χ2乗検定の結果)

	小学生			中学生			高校生		
	人数	割合(%)	χ2乗検定	人数	割合(%)	χ2乗検定	人数	割合(%)	χ2乗検定
A型	805	75%	▲ **	725	65%	▲ **	244	21%	▽ **
B型	151	14%	▲ *	96	9%	ns	50	4%	▽ *
C型	70	6%	▽ **	180	16%	ns	459	40%	▲ **
D型	52	5%	▽ **	118	11%	+	385	34%	▲ **
合計	1,078	100%		1,119	100%		1,138	100%	

(▲有意に多い、▽有意に少ない、p<.05) +p<.10 *p<.05 **p<.01

栃木の子どもの4分類の現状(発達の段階別)



栃木の子どもの4分類の現状(分類別)

分析(6) χ^2 乗検定

「カイ自乗検定の結果」
(上段実測値、下段期待値)

75	65	21
53.667	54.203	53.13

14	9	4
9	9.09	8.91

6	16	40
20.667	20.873	20.46

5	11	34
16.667	16.833	16.5

$\chi^2(6) = 94.502$, $p < .01$
Phi=0.396

「残差分析の結果」
(上段調整された残差、下段検定結果)

5.24	2.645	-7.911
**	**	**

2.14	-0.038	-2.107
*	ns	*

-4.436	-1.47	5.925
**	ns	**

-3.834	-1.912	5.766
**	+	**

+p<.10 *p<.05 **p<.01

「実測値と残差分析の結果」

75 ▲	65 ▲	21
14 ▲	9	4
6 ▼	16	40
5 ▼	11	34

(▲有意に多い、▼有意に少ない、 $p < .05$)

/// Analyzed by JavaScript-STAR ///

栃木の子どもの4分類の現状(χ^2 乗検定の結果)

	小学生			中学生			高校生		
	人数	割合(%)	χ^2 乗検定	人数	割合(%)	χ^2 乗検定	人数	割合(%)	χ^2 乗検定
A型	805	75%	▲ **	725	65%	▲ **	244	21%	▼ **
B型	151	14%	▲ *	96	9%	ns	50	4%	▼ *
C型	70	6%	▼ **	180	16%	ns	459	40%	▲ **
D型	52	5%	▼ **	118	11%	+	385	34%	▲ **
合計	1,078	100%		1,119	100%		1,138	100%	

(▲有意に多い、▼有意に少ない、 $p < .05$) +p<.10 *p<.05 **p<.01

分析(5) ロジスティック回帰分析 発達の段階別

規範意識を醸成する「具体的な指導の手がかり」(発達の段階別)

従属変数:「A型 (まじめ型)」

方程式中の変数

学校種		B	標準誤差	Wald	有意確率	Exp (B)	
小学校	私は時間を守る	.366	.103	12.605	.000	1.441	
	私は家庭学習を自主的にする	.220	.082	7.163	.007	1.246	
	アドバイスする人とつきあうのは面倒でない	.211	.085	6.070	.014	1.234	
	先生はほめてほしいことをほめてくれる	-.207	.101	4.240	.039	.813	
	社会的望ましさの合計	.364	.045	64.519	.000	1.439	
	Nagelkerke R2 乗						.237
中学校	先生は生活を考える時間をとる	.346	.037	52.749	.000	1.414	
	教室にゴミが落ちていない	.287	.089	15.090	.000	1.332	
	学校の先生同士は協力的だと思う	.227	.082	12.167	.015	1.255	
	先生は大切なことが守れないと叱る	.239	.094	5.859	.018	1.270	
	社会的望ましさの合計	.272	.101	5.632	.000	1.312	
	Nagelkerke R2 乗						.198
高校	教室にゴミが落ちていない	.332	.091	13.407	.000	1.394	
	学校の先生同士は協力的だと思う	.300	.102	8.642	.003	1.350	
	私の家族は学校や先生をほめる	.256	.089	8.262	.004	1.292	
	社会的望ましさの合計	.265	.044	36.675	.000	1.304	
	Nagelkerke R2 乗						.140

従属変数:「まじめ型」

従属変数:「D型(不良型)」

方程式中の変数

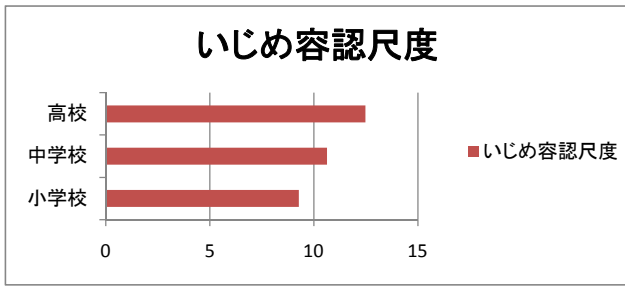
学校種		B	標準誤差	Wald	有意確率	Exp (B)	
小学校	教室にゴミが落ちていない	-.502	.244	4.228	.040	.605	
	家族は意見が違って話を聴いてくれ	-.452	.159	8.075	.004	.636	
	社会的望ましさの合計	-.343	.077	19.635	.000	.709	
	Nagelkerke R2 乗						.152
	中学校	私は家庭学習を自主的にする	-.466	.095	7.590	.000	.628
中学校	先生は大切なことが守れないと叱る	-.458	.107	18.822	.000	.633	
	私は家族にあいさつする	-.262	.131	7.474	.006	.770	
	教室にゴミが落ちていない	-.358	.129	12.672	.006	.699	
	社会的望ましさの合計	-.312	.058	28.931	.000	.732	
	Nagelkerke R2 乗						.212
高校	私は家庭学習を自主的にする	-.327	.066	24.357	.000	.721	
	私の家族は学校や先生をほめる	-.367	.091	10.164	.000	.693	
	私は誰かの役に立っていると思う	.290	.082	9.023	.001	1.337	
	教室にゴミが落ちていない	-.247	.084	4.246	.003	.781	
	地域には子どもを注意する大人いると	-.169	.085	4.403	.033	.844	
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.179	.085	18.476	.036	.836	
	先生は協力学習の時間をとる	-.174	.079	4.546	.039	.840	
	社会的望ましさの合計	-.123	.038	10.516	.001	.884	
	Nagelkerke R2 乗						.166

従属変数:「不良型」

規範意識を醸成する「具体的な指導の手がかり」(発達の段階別)

	質問項目(略称)	小学校						中学校						高校					
		従属変数:「A型」			従属変数:「D型」			従属変数:「A型」			従属変数:「D型」			従属変数:「A型」			従属変数:「D型」		
		B	有意確率	リスク確率	B	有意確率	リスク確率	B	有意確率	リスク確率	B	有意確率	リスク確率	B	有意確率	リスク確率	B	有意確率	リスク確率
共通	教室にゴミが落ちてない				-.502	.040	.605	.287	.000	1.332	-.358	.006	.699	.332	.000	1.394	-.247	.003	.781
	先生同士協力的だと思う							.227	.015	1.255				.300	.003	1.350	-.179	.036	.836
	家庭学習自主的にする	.220	.007	1.246							-.466	.000	.628				-.327	.000	.721
小学校	私は時間を守る	.366	.000	1.441															
	人づき合いは面倒でない	.211	.014	1.234															
	先生はほめてくれる	-.207	.039	.813															
	家族は聴いてくれる				-.452	.004	.636												
中学校	先生は生活考える時間とる							.346	.000	1.414									
	先生大切に事守れないと叱る							.239	.018	1.270	-.458	.000	.633						
	家族にあいさつする										-.262	.006	.770						
高校	家族は学校先生をほめる													.256	.004	1.292	-.367	.000	.693
	地域に注意する大人いる																-.169	.033	.844
	先生は協力学習時間をとる																-.174	.039	.840
	私は誰かの役に立っている																.290	.001	1.337
Nagelkerke R2 乗		.237			.152			.198			.212			.140			.166		

分析(6) 階層的重回帰分析



記述統計量

学校種	いじめ容認合計	度数	最小値	最大値	平均値	差
小学校	いじめ容認合計	1043	18	76	37.12	10.058
	有効なケースの数 (リストご)	1043				
中学校	いじめ容認合計	1106	19	79	42.51	10.931
	有効なケースの数 (リストご)	1106				
高校	いじめ容認合計	1145	25	82	49.94	9.486
	有効なケースの数 (リストご)	1145				

階層的重回帰分析により

従属変数：いじめ容認態度尺度

モデル集計

小学生の結果

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.535	.286	.284	8.427

モデル	数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	62.600	1.833		34.147	.000
社会的望ましさの合計	-1.934	.138	-.388	-13.990	.000
仲間規範	-1.299	.174	-.222	-7.452	.000
先生規範	-1.227	.296	-.136	-4.141	.000
仲間 x 先生	-.086	.065	-.044	-1.331	.184

従属変数：いじめ容認尺度

係数a

モデル	標準化係数	有意確率
	ベータ	
社会的望ましさの合計	-.388	.000
仲間の規範意識(修正)	-.222	.000
先生の規範意識(修正)	-.136	.000
仲間(修正) x 先生(修正)	-.044	.184
調整済み R2 乗	.284	

従属変数：いじめ容認尺度

中学生の結果

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.587	.344	.342	8.890

モデル	数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	68.178	1.770		38.524	.000
社会的望ましさの合計	-2.022	.141	-.367	-14.374	.000
仲間規範	-1.452	.119	-.348	-12.248	.000
先生規範	-1.232	.286	-.155	-4.302	.000
仲間 x 先生	-.221	.053	-.150	-4.192	.000

a. 従属変数 いじめ容認合計

係数a

モデル	標準化係数	有意確率
	ベータ	
社会的望ましさの合計	-.367	.000
仲間規範	-.348	.000
先生規範	-.155	.000
仲間 x 先生	-.150	.000
調整済み R2 乗	.342	

a. 従属変数 いじめ容認合計

高校生の結果

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.478	.229	.226	8.358

モデル	数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	64.209	1.628		39.432	.000
社会的望ましさの合計	-1.199	.135	-.241	-8.866	.000
仲間規範	-.853	.085	-.292	-10.074	.000
先生規範	-.610	.144	-.148	-4.238	.000
仲間 x 先生	-.030	.029	-.035	-1.054	.292

a. 従属変数 いじめ容認合計

係数a

モデル	標準化係数	有意確率
	ベータ	
社会的望ましさの合計	-.241	.000
仲間の規範意識(修正)	-.292	.000
先生の規範意識(修正)	-.148	.000
仲間(修正) x 先生(修正)	-.035	.292
調整済み R2 乗	.226	

a. 従属変数 いじめ容認合計

分析(6) 下位検定 階層的重回帰分析 単純傾斜の検定

① 先生規範の高群 中学生

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
				R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
.587	.344	.342	8.890	.011	17.576	1	1083	.000

係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
(定数)	66.420	1.831		36.275	.000		
社会的望ましさの合計	-2.022	.141	-.367	-14.374	.000	.929	1.077
仲間規範	-1.767	.152	-.423	-11.655	.000	.459	2.177
先生規範above	-1.232	.286	-.155	-4.302	.000	.467	2.142
仲間規範 × 先生規範above	-.221	.053	-.194	-4.192	.000	.283	3.534

従属変数：問題行動経験

※1

考察
 ※1と※2の標準化係数(ベータ)を比較すると、※1の値の方が大きくなっている。このことから、先生規範の高群も低群も、仲間規範が問題行動経験を有意に抑制しているが、先生規範の高群で、仲間規範が大きく問題行動経験を抑制している。

① 先生規範の低群 中学生

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
				R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
.587	.344	.342	8.890	.011	17.576	1	1083	.000

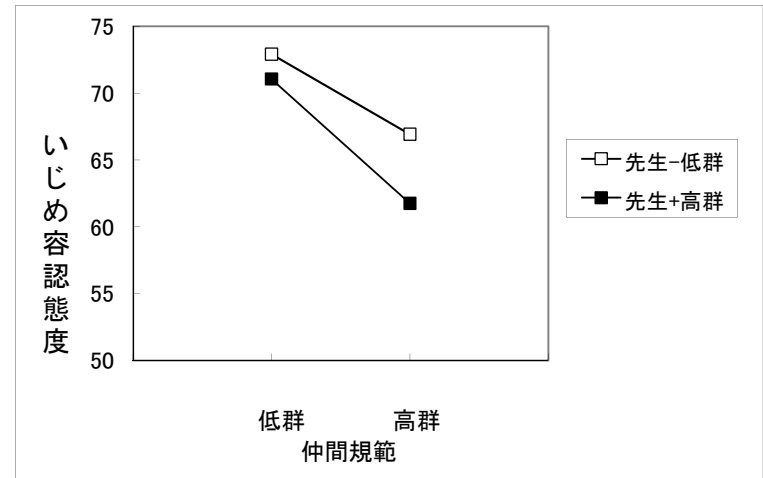
係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
(定数)	69.936	1.801		38.822	.000		
社会的望ましさの合計	-2.022	.141	-.367	-14.374	.000	.929	1.077
仲間規範	-1.137	.128	-.272	-8.878	.000	.643	1.554
先生規範below	-1.232	.286	-.155	-4.302	.000	.467	2.142
仲間規範 × 先生規範below	-.221	.053	-.137	-4.192	.000	.567	1.762

従属変数：問題行動経験

※2

いじめ容認態度に対する先生規範と仲間規範の交互作用 (単純傾斜の検定)



② 仲間規範の高群 中学生

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
				R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
.587	.344	.342	8.890	.011	17.576	1	1083	.000

係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
(定数)	64.357	1.862		34.566	.000		
社会的望ましさの合計	-2.022	.141	-.367	-14.374	.000	.929	1.077
仲間規範above	-1.452	.119	-.348	-12.248	.000	.751	1.331
先生規範	-1.812	.391	-.228	-4.633	.000	.250	3.997
仲間規範above x 先生規範	-.221	.053	-.209	-4.192	.000	.245	4.085

従属変数：問題行動経験

※3

考察
 ※3と※4の標準化係数(ベータ)を比較すると、※3の値の方が大きくなっている。このことから、仲間規範高群で、先生規範が大きく問題行動経験を抑制している。また、特に仲間規範低群は、先生規範が問題行動経験を抑制しているが、その影響はとても小さい。

② 仲間規範の低群 中学生

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	変化の統計量				
				R2 乗変化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率 F 変化量
.587	.344	.342	8.890	.011	17.576	1	1083	.000

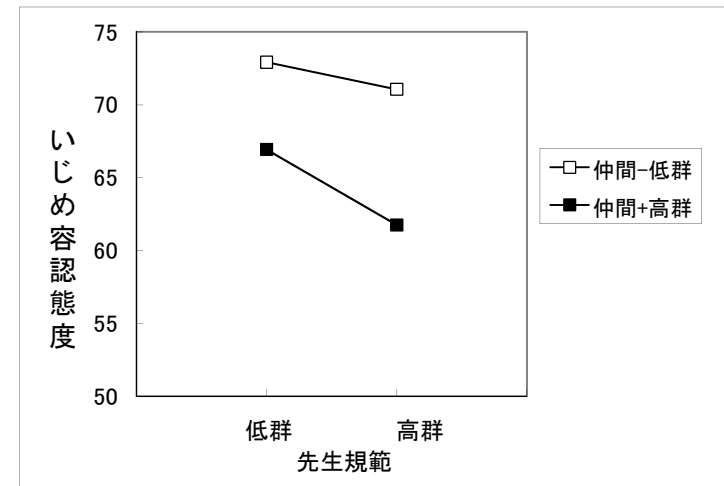
係数a

モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
	B	標準誤差	ベータ			許容度	VIF
(定数)	72.000	1.730		41.623	.000		
社会的望ましさの合計	-2.022	.141	-.367	-14.374	.000	.929	1.077
仲間規範below	-1.452	.119	-.348	-12.248	.000	.751	1.331
先生規範	-.651	.222	-.082	-2.932	.003	.776	1.289
仲間規範below x 先生規範	-.221	.053	-.110	-4.192	.000	.873	1.145

従属変数：問題行動経験

※4

いじめ容認態度に対する先生規範と仲間規範の交互作用 (単純傾斜の検定)



分析(7)、分析(9) 階層的重回帰分析

従属変数: いじめ容認態度尺度

学校種	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	
小学校	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.230	-8.048	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.075	-2.622	.009
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.089	-3.214	.001
	教室の約束事は話合いで決める	-.076	-2.756	.006
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.068	-2.493	.013
	社会的望ましさの合計	-.347	-11.752	.000
	調整済み R2 乗			.314
中学校	学校の先生同士は協力的だと思う	-.224	-7.575	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.183	-6.848	.000
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.104	-3.976	.000
	先生はルールを守るべき理由を説明する	-.097	-3.242	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.078	-3.099	.002
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.062	2.385	.017
	社会的望ましさの合計	-.310	-11.459	.000
調整済み R2 乗			.366	
高校	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.105	-3.693	.000
	家族は大切なことが守れないと叱る	-.095	-2.788	.005
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.091	-3.052	.002
	教室にゴミが落ちていない	-.085	-3.074	.002
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.075	-2.254	.024
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.066	-2.176	.030
	先生は協力学習の時間をとる	-.062	-2.144	.032
	社会的望ましさの合計	-.221	-7.518	.000
調整済み R2 乗			.187	

従属変数: いじめ加担経験尺度

学校種	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	
小学校	アドバイスする人につきあうのは面倒で	-.125	-4.355	.000
	教室にゴミが落ちていない	-.094	-3.453	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.091	-3.223	.001
	私は時間を守れる	-.077	-2.698	.007
	先生はほめてほしいことをほめてくれる	.057	2.078	.038
	社会的望ましさの合計	-.394	-12.618	.000
	調整済み R2 乗			.290
中学校	教室にゴミが落ちていない	-.136	-4.974	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.112	-3.978	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒で	-.097	-3.298	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.096	-3.426	.001
	私は誰かの役に立っていると思う	.081	2.885	.004
	社会的望ましさの合計	-.327	-11.017	.000
調整済み R2 乗			.218	
高校	教室にゴミが落ちていない	-.109	-3.859	.000
	私は家庭学習を自主的にする	-.084	-2.910	.004
	家族は大切なことが守れないと叱る	-.068	-2.356	.019
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.094	3.235	.001
	社会的望ましさの合計	-.267	-8.720	.000
調整済み R2 乗			.128	

従属変数: いじめ加担経験

いじめ容認態度を抑制する「具体的な指導の手がかり」

モデル集計t

学校種	モデル	R	R2 乗	調整済 み R2 乗	推定値の 標準誤差	変化の統計量				Durbin- Watson	
						R2 乗変 化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2		有意確率 F 変化量
小学校	6	.564	.318	.314	8.298	.004	6.217	1	978	.013	1.570
中学校	7	.609	.371	.366	8.695	.003	5.689	1	1056	.017	1.675
高校	8	.439	.193	.187	8.599	.003	4.734	1	1102	.030	1.730

係数a

学校種	モデル	標準化されていない係 数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確 率
		B	標準誤 差			
小学校	(定数)	80.591	2.517		32.017	.000
	社会的望ましさの合計	-1.726	.147	-.347	-11.752	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-2.434	.302	-.230	-8.048	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-1.101	.420	-.075	-2.622	.009
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.879	.273	-.089	-3.214	.001
	教室の約束事は話合いで決める	-.824	.299	-.076	-2.756	.006
	先生は大切なことが守れないと叱る	-1.171	.470	-.068	-2.493	.013
中学校	(定数)	86.983	1.976		44.017	.000
	社会的望ましさの合計	-1.710	.149	-.310	-11.459	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-2.933	.387	-.224	-7.575	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-2.219	.324	-.183	-6.848	.000
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-1.140	.287	-.104	-3.976	.000
	先生はルールを守るべき理由を説明する	-1.176	.363	-.097	-3.242	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.887	.286	-.078	-3.099	.002
私はクラスの人に感謝喜ばれている	.838	.351	.062	2.385	.017	
高校	(定数)	80.809	1.981		40.790	.000
	社会的望ましさの合計	-1.111	.148	-.221	-7.518	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-1.188	.322	-.105	-3.693	.000
	家族は大切なことが守れないと叱る	-1.032	.370	-.095	-2.788	.005
	学校の先生同士は協力的だと思う	-1.008	.330	-.091	-3.052	.002
	教室にゴミが落ちていない	-.952	.310	-.085	-3.074	.002
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.728	.323	-.075	-2.254	.024
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.784	.360	-.066	-2.176	.030
	先生は協力学習の時間をとる	-.700	.326	-.062	-2.144	.032

従属変数:いじめ容認態度

分析(7)、分析(9) 階層的重回帰分析

従属変数:いじめ容認態度尺度

学校種	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	
小学校	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.230	-8.048	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.075	-2.622	.009
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.089	-3.214	.001
	教室の約束事は話合いで決める	-.076	-2.756	.006
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.068	-2.493	.013
	社会的望ましさの合計	-.347	-11.752	.000
	調整済み R2 乗		.314	
中学校	学校の先生同士は協力的だと思う	-.224	-7.575	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.183	-6.848	.000
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.104	-3.976	.000
	先生はルールを守るべき理由を説明する	-.097	-3.242	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.078	-3.099	.002
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.062	2.385	.017
	社会的望ましさの合計	-.310	-11.459	.000
調整済み R2 乗		.366		
高校	アドバイスする人につきあうのは面倒でな	-.105	-3.693	.000
	家族は大切なことが守れないと叱る	-.095	-2.788	.005
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.091	-3.052	.002
	教室にゴミが落ちていない	-.085	-3.074	.002
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.075	-2.254	.024
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.066	-2.176	.030
	先生は協力学習の時間をとる	-.062	-2.144	.032
	社会的望ましさの合計	-.221	-7.518	.000
調整済み R2 乗		.187		

従属変数:いじめ加担経験尺度

学校種	標準化係数 ベータ	t 値	有意確率	
小学校	アドバイスする人につきあうのは面倒で	-.125	-4.355	.000
	教室にゴミが落ちていない	-.094	-3.453	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.091	-3.223	.001
	私は時間を守れる	-.077	-2.698	.007
	先生はほめてほしいことをほめてくれる	.057	2.078	.038
	社会的望ましさの合計	-.394	-12.618	.000
	調整済み R2 乗		.290	
中学校	教室にゴミが落ちていない	-.136	-4.974	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.112	-3.978	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒で	-.097	-3.298	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.096	-3.426	.001
	私は誰かの役に立っていると思う	.081	2.885	.004
	社会的望ましさの合計	-.327	-11.017	.000
調整済み R2 乗		.218		
高校	教室にゴミが落ちていない	-.109	-3.859	.000
	私は家庭学習を自主的にする	-.084	-2.910	.004
	家族は大切なことが守れないと叱る	-.068	-2.356	.019
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.094	3.235	.001
	社会的望ましさの合計	-.267	-8.720	.000
調整済み R2 乗		.128		

従属変数:いじめ加担経験

いじめ容認態度を抑制する「具体的な指導の手がかり」

モデル集計t

学校種	モデル	R	R2 乗	調整済 み R2 乗	推定値の 標準誤差	変化の統計量				Durbin- Watson	
						R2 乗変 化量	F 変化量	自由度 1	自由度 2		有意確率 F 変化量
小学校	6	.564	.318	.314	8.298	.004	6.217	1	978	.013	1.570
中学校	7	.609	.371	.366	8.695	.003	5.689	1	1056	.017	1.675
高校	8	.439	.193	.187	8.599	.003	4.734	1	1102	.030	1.730

係数a

学校種	モデル	標準化されていない係 数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確 率
		B	標準誤 差			
小学校	(定数)	80.591	2.517		32.017	.000
	社会的望ましさの合計	-1.726	.147	-.347	-11.752	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-2.434	.302	-.230	-8.048	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-1.101	.420	-.075	-2.622	.009
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.879	.273	-.089	-3.214	.001
	教室の約束事は話合いで決める	-.824	.299	-.076	-2.756	.006
	先生は大切なことが守れないと叱る	-1.171	.470	-.068	-2.493	.013
中学校	(定数)	86.983	1.976		44.017	.000
	社会的望ましさの合計	-1.710	.149	-.310	-11.459	.000
	学校の先生同士は協力的だと思う	-2.933	.387	-.224	-7.575	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-2.219	.324	-.183	-6.848	.000
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-1.140	.287	-.104	-3.976	.000
	先生はルールを守るべき理由を説明する	-1.176	.363	-.097	-3.242	.001
	私は家庭学習を自主的にする	-.887	.286	-.078	-3.099	.002
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.838	.351	.062	2.385	.017
高校	(定数)	80.809	1.981		40.790	.000
	社会的望ましさの合計	-1.111	.148	-.221	-7.518	.000
	アドバイスする人につきあうのは面倒でな い	-1.188	.322	-.105	-3.693	.000
	家族は大切なことが守れないと叱る	-1.032	.370	-.095	-2.788	.005
	学校の先生同士は協力的だと思う	-1.008	.330	-.091	-3.052	.002
	教室にゴミが落ちていない	-.952	.310	-.085	-3.074	.002
	家族はルールを守るべき理由を説明する	-.728	.323	-.075	-2.254	.024
	先生は大切なことが守れないと叱る	-.784	.360	-.066	-2.176	.030
	先生は協力学習の時間をとる	-.700	.326	-.062	-2.144	.032

従属変数:いじめ容認態度

いじめ加担経験を抑制する「具体的な指導の手がかり」

モデル集

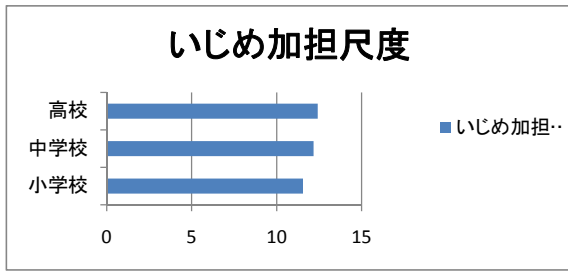
学校種	モデル	R	R2 乗	調整済 み R2 乗	推定値の 標準誤差	変化の統計量					Durbin- Watson
						R2 乗変	F 変化量	自由度 1	自由度 2	有意確率	
小学校	6	.543	.294	.290	1.625	.003	4.320	1	1011	.038	1.578
中学校	6	.471	.222	.218	1.879	.006	8.325	1	1075	.004	1.811
高校	5	.364	.132	.128	2.040	.004	5.552	1	1115	.019	1.579

係数a

学校種	モデル	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	B の 95.0% 信頼区間		共線性の統計量	
		B	標準誤差				下限	上限	許容度	VIF
小学校	(定数)	18.216	.368		49.433	.000	17.493	18.939		
	社会的望ましさの合計	-.376	.030	-.395	-12.613	.000	-.435	-.318	.712	1.405
	アドバイスする人とつきあうのは面倒でな	-.254	.058	-.125	-4.355	.000	-.369	-.140	.852	1.174
	教室にゴミが落ちていない	-.214	.062	-.094	-3.453	.001	-.336	-.092	.942	1.061
	私は家庭学習を自主的にする	-.180	.056	-.091	-3.223	.001	-.289	-.070	.882	1.134
	私は時間を守る	-.175	.065	-.077	-2.698	.007	-.302	-.048	.853	1.173
	先生はほめてほしいことをほめてくれる	.135	.065	.057	2.078	.038	.008	.262	.934	1.071
中学校	(定数)	18.956	.422		44.932	.000	18.128	19.784		
	社会的望ましさの合計	-.350	.032	-.327	-11.017	.000	-.412	-.287	.821	1.218
	教室にゴミが落ちていない	-.330	.066	-.136	-4.974	.000	-.460	-.200	.967	1.034
	学校の先生同士は協力的だと思う	-.284	.071	-.112	-3.978	.000	-.424	-.144	.916	1.091
	アドバイスする人とつきあうのは面倒でな	-.228	.069	-.097	-3.298	.001	-.363	-.092	.842	1.187
	私は家庭学習を自主的にする	-.212	.062	-.096	-3.426	.001	-.333	-.090	.925	1.081
	私は誰かの役に立っていると思う	.207	.072	.081	2.885	.004	.066	.348	.919	1.088
高校	(定数)	17.494	.442		39.608	.000	16.627	18.361		
	社会的望ましさの合計	-.347	.034	-.301	-10.298	.000	-.414	-.281	.909	1.100
	教室にゴミが落ちていない	-.279	.072	-.109	-3.859	.000	-.421	-.137	.973	1.027
	私は家庭学習を自主的にする	-.172	.059	-.084	-2.910	.004	-.288	-.056	.941	1.063
	家族は大切なことが守れないと叱る	-.167	.071	-.068	-2.356	.019	-.306	-.028	.948	1.055
	私はクラスの人に感謝喜ばれている	.258	.080	.094	3.235	.001	.101	.414	.923	1.084

従属変数:いじめ加担経験

分析(8) 階層的重回帰分析



記述統計量

学校種		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
小学校	いじめ加担合計	1076	10	20	11.55	1.937
	有効なケースの数 (リストご)	1076				
中学校	いじめ加担合計	1123	10	20	12.17	2.133
	有効なケースの数 (リストご)	1123				
高校	いじめ加担合計	1155	10	20	12.43	2.175
	有効なケースの数 (リストご)	1155				

従属変数：いじめ加担経験尺度

小学生の結果

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.539	.290	.288	1.626

係数a

モデル	数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率
	B	標準誤差			
(定数)	17.008	.346		49.134	.000
社会的望ましさの合計	-.415	.026	-.432	-15.898	.000
仲間規範	-.207	.033	-.182	-6.229	.000
先生規範	-.167	.056	-.096	-2.977	.003
仲間規範 x 先生規範	-.005	.012	-.013	-.414	.679

→
抜粋

係数a

モデル	数		有意確率
	ベータ		
社会的望ましさの合計	-.432	.000	
仲間規範	-.182	.000	
先生規範	-.096	.003	
仲間規範 x 先生規範	-.013	.679	
調整済み R2 乗	.288		

従属変数：いじめ加担尺度

従属変数：いじめ加担尺度

中学生の結果

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.476	.226	.223	1.885

モデル	数		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率
	B	標準誤差			
(定数)	16.811	.371		45.275	.000
社会的望ましさの合計	-.370	.030	-.345	-12.526	.000
仲間規範	-.201	.025	-.247	-8.049	.000
先生規範	-.069	.060	-.046	-1.160	.246
仲間 x 先生	-.015	.011	-.052	-1.317	.188

→
抜粋

	数		有意確率
	ベータ		
社会的望ましさの合計	-.345	.000	
仲間の規範意識(修正)	-.247	.000	
先生の規範意識(修正)	-.046	.246	
仲間(修正) x 先生(修)	-.052	.188	
調整済み R2 乗	.223		

a. 従属変数 いじめ加担合計

a. 従属変数 いじめ加担合計

高校生の結果

モデル集計

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
.412	.170	.167	1.981

係数a

モデル	標準化されていない係 標準誤差		標準化係数 ベータ	t 値	有意確率
	B				
(定数)	16.096	.384		41.897	.000
社会的望ましさの合計	-.306	.032	-.270	-9.600	.000
仲間規範	-.116	.020	-.174	-5.809	.000
先生規範	-.149	.034	-.157	-4.363	.000
仲間 x 先生	-.009	.007	-.044	-1.281	.200

a. 従属変数 いじめ加担合計

係数a

モデル	標準化係 ベータ		有意確率
社会的望ましさの合計	-.270	.000	
仲間規範	-.174	.000	
先生規範	-.157	.000	
仲間 x 先生	-.044	.200	
調整済み R2 乗	.167		

a. 従属変数 いじめ加担合計